

水中のBOD・リンが減少
学区、小学校、市民団体が協力
芦田川環境マネジメントC
浄化C月間の実施報告

芦田川の水環境改善を目指す官民ネットワーク「芦田川環境マネジメントセンター」AEMC（事務局＝福山市西町2-10-1・エフエムふくやま内、担当・川嶋・原さん、電話090・2381・6619）は、昨年11月に1カ月間実施した「家庭で出来る水質浄化の取り組み」を流域住民に呼びかける「河川浄化チャレンジ月間」の結果を発表した。

それによると、瀬戸川流域ではBOD（水中の汚れの量）は約15%、TP（水中のリンの量）は約29%減少するなど、一定の削減効果が確認された。

水質浄化の取り組みは、07年度からスタートし、通算で9回

それによると、瀬戸川流域ではBOD（水中の汚れの量）は約15%、T—P（水中のリンの量）は約29%減少するなど、一定の削減効果が確認された。

水質浄化の取り組みは、07年度からスタートし、通算で9回

目となる。今年度は瀬戸・駅家の2学区、津之郷・赤坂・御野・中条・服部・宜山・常金丸・駅家西・駅家・御幸・網引の11小学校及び流域の4市民団体が協力した。

取り組み内容は①排水口にネットをかけて、調理くずや食べ残しを流さない②汚れのひどい鍋、食器類は、ふき取ってから洗う③食用油は直接流さず、紙にしみ込ませたり、固めたりして捨てる④食器類を洗う時に、洗剤の使用量を減らす⑤洗濯の時に、洗剤の適量使用を心がける―の5項目。

取り組み内容は①排水口に
ネットをかけて、調理くずや食
べ残しを流さない②汚れのひ
どい鍋、食器類は、ふき取つて
から洗う③食用油は直接流さ
ず、紙にしみ込ませたり、固め
たりして捨てる④食器類を洗
う時に、洗剤の使用量を減らす
⑤洗濯の時に、洗剤の適量使用
を心がける―の5項目。

実施結果について、チャレンジ月間の参加者からは「洗剤を少な目に使う、洗い物をまとめをするなど、私にできることをチャレンジしてみた」「家族にとって、生活排水の環境への影響を考える良い機会になった」などの声が集まった。

